

進んで学び心豊かで たくましい「富来っ子」の育成

大分県国東市立富来小学校

全校児童数	101名(男子53名 女子48名)		
全クラス数	6	教職員数	10名
体育専科教員訪問学校数			1校
訪問校	姫島村立姫島小学校		
体育専科教員名		溝部 裕二	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆体力の二極化

・社会体育で運動をしている子どもと、していない子どもの体力の差が大きい。

◆柔軟性・握力・走力など、体力テストでの弱さ

・個人差もあるが、全体的に走力などの基礎体力がついていない傾向がある。

◆睡眠時間が少ない子どもが多い

・昨年と同様、睡眠時間が8時間未満の子どもが多く、6時間未満の子どもが全体の8%。(4年生以上)

2 取組の計画

- ①体育授業で基礎体力をつけるための運動を導入
- ②体育授業の工夫改善
- ③担任の体育授業の実践力向上につながる資料提供や専科T2への移行準備(3年目の取組)
- ④地域・家庭と連携した取り組みや啓発活動
- ⑤兼務校や地域の学校への資料提供やアドバイス

Do：実践内容

1 体育授業の充実

- (1)準備運動の工夫
 - ①準備運動に体力テストで弱かった項目の動きを高めるため、ダッシュや基礎体力作りのためのメニューを追加
- (2)ICTの活用と授業の組み立て
 - ①iPadを活用して、子どもたちに「見える化」を意図的に学習活動に位置付け、動きの確認をさせるとともに、45分の学習の中で「できる」体験を通して、満足感や達成感を味わうことができる授業の確立

2 1校1実践の内容の見直し

- ①子どもたちが自ら進んで取り組めるように、学期毎にメニューを見直し、児童会とも連携した実践の工夫や評価カードの活用
 - ・1学期 体力テスト項目の練習&サーキット
 - ・2学期 持久走・体力テストの弱点項目の運動
 - ・3学期 なわとび・運動場サーキット

3 担任T1の授業の取り組み

- ①担任が、子どもが体を動かす喜びを味わえる授業を展開しやすいように、各学年の実態に応じた指導案の配布と資料の提供。

4 地域・家庭との連携

- ①親子運動の資料提供や通信の配布。

5 兼務校や地域の学校への資料提供等

兼務校でも同様に取り組みを展開していく。

●工夫したこと (&苦労した点)

- ①担任との意思疎通を図り、学習前に打ち合わせをして子どもたちの意欲が持続できるようにどの場面でどのような支援が必要なのかを確認した。
- ②子どもたちの運動量を確保するために、全ての学年が同じ時期に同じ領域で学習ができるように教育課程を組み、できるだけ準備や片付けの時間が少なくすむようにした。
- ③45分の学習活動をスモールステップで、どの子にも必ず「できた」という達成感や喜びをもたせるように、場や教材・教具の工夫に努めた。
- ④子どもたちが楽しみながら進んで学習や運動ができるように、手作りの教具を作成したり、弱点が克服できるための道具の準備をしたりした。
- ⑤専科T2の学習形態をとり担任が学習を進めることで、専科教員は運動が苦手な子どもや上手くできない子どもにポイントを伝えたり、アドバイスしたりする時間が増え、子どもたちの運動意欲の持続につながった。

Check：取組の成果

- ①TT指導を進める中で、運動経験が少なく苦手意識を持っていた子どもが少しずつ減ってきている。(児童アンケートより)また、各学期末に行っている、運動への愛好度や運動が好きと答える児童も増加傾向にある。
- ②運動の場や教材・教具の工夫をしながら学習を進めてきたことで、運動に対しての関心や挑戦してみようとする姿勢が多く見られるようになってきた。

Action：今後の課題

- ①体力テストで瞬発力・走力に課題がある。これまでも、学習前のサーキット運動で補充をしてきているが、その内容の見直しとレベルアップが求められる。そのためには、やらされている運動から、子どもが自ら取り組む運動へ転換されるよう運動に親しみやすい環境づくりや場の工夫が必要である。
- ②教材・教具が十分でない。(兼務校も同様)
- ③兼務校の担任と打ち合わせをする時間や授業準備の時間確保が難しい。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

体育学習だけでなく他の教科の学習活動においても、集中して取り組む姿やあきらめずに粘り強く挑戦する姿が見られるようになってきた。また、学習中けじめのある態度や、規律を守り計画性のある行動にもつながりつつある。

今年度の学習の様子



体カアップ運動



わくわくタイム

